

## 2024新春の「9の日」アクション。 軍拡予算・「戦争する国」づくりNO! ガザ停戦! 9条 持つ国の役割を!

2024年の年があけ、通常国会が月末召集（1月26日？）されます。この国会で審議される2024年度政府予算案の軍事費は約8兆円。（予算総額112兆円、一般会計税収見込み69兆6080億円のなか）先進諸国から大きく立ち後れた低賃金と物価高騰、加えて大震災でまさに「危機」の国民生活そっちのけで社会保障削減・増税・大軍拡・戦争する国づくり（極超音速誘導弾など長射程ミサイル開発と量産、自衛隊を米軍指揮下に組み込むための「統合作戦司令部」新設、自衛隊基地「強靱（きょうじん）化」などという政治の根本からの転換をめざすたたかいが待ったなしです。



### パレスチナの命。「平和的生存権」の憲法持つ国として

中東のパレスチナ・ガザでは年明け後もイスラエル軍の空爆・封鎖・攻撃が続き連日100人を超える死者が生まれ、その多くが女性や子どもです。国連は12月12日、人道的停戦決議を世界153か国の賛成で採択。安保理も12月22日、人道支援拡大の決議を採択しましたが、「飢餓」も言われる現状は変わらず、イスラエル軍は「ハマス掃討作戦は

2024年中続く」などとしています。年末の12月24日「パレスチナの命を守れ！」と開催された札幌駅前での12/24集会では、道パレスチナ医療奉仕団の猫塚医師、清末愛砂さん（室蘭工大）、香山リカさん（医師）らとともに、北大に留学中のムハンマドさん（エジプト）らもマイクを握り、「いま世界中がクリスマスまで何日か数えているその時、ガザの家族は子どもたちが何日食べてないか、死んでしまわないか数えている」と訴えました。「多くの国がイスラエルに武器を供与し、イスラエル軍がガザを封鎖。食糧輸送を阻んでいる。世界がこの恥ずべき状況を作っている、その現実を知って」「パラスタインに自由を！ストップ・ジェノサイド！」としたムハンマドさんの訴え。猫塚医師、清末さんからは「過酷な衛生環境で、銃撃でなくても殺される。シーファ病院は死の領域」「日本政府は、平和的生存権を掲げる日本国憲法を持つ国に相応しい対応を」「われらは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和の内に生存する権利を有することを確認する」という憲法を持つ政府ならば、まさに今『恐怖』と『欠乏』のなかにいる人びとを傍観してはられないはず」との訴えがー。「9の日」行動を全道で！

大軍拡予算 No!  
ガザ停戦! 核廃絶  
「9の日」行動へ  
9日(火) 12:15 パルコ